

実践記録（小3・社会）

1 ねらい

作った質問に対し意見交流を行い、自分の考えに付け加えたり、比べたりすることで、より深めていきたい学習課題を考えることができるようにする。

2 手立て

QFT（質問作り）を行うことにより、児童が主体的に「単元を通しての学習課題」を見付けられるようにする。「質問シート」を活用し、自ら課題を見付けることができれば、探求的な学びが実現できると考えた。

付箋紙を用いて交流を行い、「意見・疑問・追加」が視覚的に分かるようにする。「意見」（赤の付箋紙）は始めに考えた質問が学習課題につながるかどうかや、現実的に解決可能な課題かどうかを客観的な視点でアドバイスをする。「疑問」（青の付箋紙）は質問の内容から疑問に思ったことを問い、「追加」（黄の付箋紙）は、元の質問に加えて、さらに聞いてみると面白いものをアドバイスする。これらを基に、自分の考えに付け加えたり、比べたりできるようにする。

3 実践の様子

児童は一学期に学区探検を行い、学区には、仏壇・仏具店が多いことに気が付いた。そこで、学区の仏壇・仏具店について理解を深め、社会科「物をつくるしごと」で学習する作業工程の工夫等も一緒に学習を進めた。

導入では、「現在」と「100年前」の仏壇通りの写真を児童に提示し、見比べさせた。【資料1】児童は「佛壇」という漢字に着目して、建物の位置や看板などから同じ場所の写真であることに気付いた。次に、仏壇自体が身近な存在ではない児童が半数近くいたため、本物の仏壇を用意し、児童に紹介した。児童は仏壇の造りに様々な疑問をもったようであった。「仏壇を作るのにどれだけの時間がかかるのか」などの声が聞かれた。

展開では、これまでに提示した写真や実物をもとに「質問シート」【資料2】を活用して質問作りを行った。児童が質問を作る際には、教師が予め単元の目標に迫る視点を複数用意し、その中から自分が興味をもった視点に絞った質問を考えた。次に、単元を通しての学習課題につなげていくため、友達からのアドバイスを、「意見（赤）・疑問（青）・追加（黄）」の3色の付箋紙に分け、交流した。友達からアドバイスをもらうことで、質問の質を高めたり、学びを深めたりし、自分が始めに考えた質問をより探求的な質問にしていった。これらの交流を通して、児童は「深めていきたい学習課題」を見付け出すことができた。



【資料1】写真を見比べる児童の様子

(質問シート)	()
視点	木地・彫刻・彩色・漆塗・金箔貼り・かざり金具・漆絵
1	視点をしぼり、質問を考える。
2	友達からアドバイスをもらう。(赤:意見 青:疑問 黄:追加)
3	アドバイスをもちに、深めていきたい学習課題を設定する。
職人さんとお話しするのは、かかる時間を考えよう。	かざり金具の工程はいつあって、どの部分のこと？全部？
職人さんの二人前の職人さんになるには、追加	それぞれの時間を調べてみるよって思っ。
職人さん(おざり金具)	どのだけの時間がかかりますか。
疑問	どれだけの時間がかかりますか。
どうなれば完成なの？	仏壇の大きさは？
それがおかしな仏壇をつくるのにかかる時間か予想できる。	職人さんどうして、はあんなにうろうろか？
深めていきたい学習課題	
一人前の職人さんになるまで、どれくらいの時間がかかるのか。	

【資料2】質問シート

4 成果と課題

- 「質問シート」を活用したことで、単元を通して深めていきたい学習課題を、児童が自ら深めることができた。
- 今後、自ら見付けた学習課題を、単元を通してどのように解決していくか見通しをもたせるための手立てが必要であった。